

第17期(2022年3月期)決算説明会

2022年6月1日



アジアパイルホールディングス株式会社

目次

I 決算のポイント、主なトピックス	1
II マーケットの動向	9
III 決算概要(連結)	15
IV 経営概況	22

I 決算のポイント、主なトピックス

I-1 決算のポイント

➤ 2022年3月期 連結業績の概況

(%表示は対前期増減率)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
931億円 (+6.9%)	21.8億円 (△34.6%)	21.6億円 (△29.6%)	14.9億円 (△38.7%)

➤ 国内、海外の状況

(連結調整前、%表示は対前期増減率)

	売上高	セグメント利益
国内	764億円 (+7.0%)	15.8億円 (△32.7%)
海外	168億円 (+5.0%)	6.3億円 (△47.5%)

新工法を主軸に積極展開
一時的な販促コスト増・施工効率低下

再エネ分野注力継続中
原材料高騰・コロナ禍の工事採算悪化

I-2 決算のポイント

➤ 国内部門別売上高

(%表示は対前期増減率)

コンクリートパイル	場所打ち	鋼管	その他(継手金具等)
562億円 (+6.7%)	123億円 (△4.0%)	51億円 (+58.3%)	26億円 (+13.2%)

I-3 主なトピックス

国内展開

大型工事を中心に受注堅調推移

新工法: Smart-MAGNUM 工法は主力工法に

杭材の大径化・高強度化の伸展継続

海外展開

ベトナム
PV社

再生可能エネルギー分野への拡大推進中
原材料高騰・コロナ禍による工事採算悪化

ミャンマー
VJP社

クーデター影響により規模縮小し事業継続
前期減損実施済による赤字圧縮

I-4 主なトピックス

国内展開

大型工事を中心に受注堅調推移

- 大型工事案件は7割を超える水準に
- 受注高堅調に推移
2022/3末受注残:約380億円(前期末比+3割増)

※ 完工ベース(2022年7月4日追記)

新工法:Smart-MAGNUM工法は主力工法に

- Smart-MAGNUM工法売上急伸

新工法	上期	下期
Smart-MAGNUM	58件/18億円	241件/150億円

MAGNUM工法と併せ両工法で売上4割を占める主力工法に

国内展開

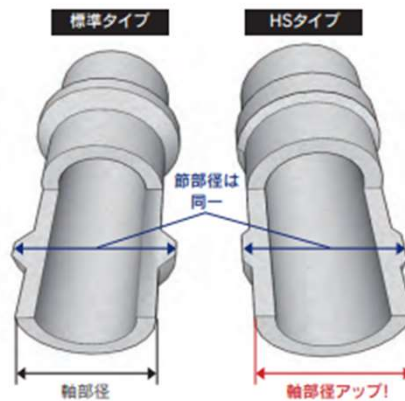
杭材の大径化・高強度化の伸展継続

▶ 大型工事受注増に伴い、高支持力工法対応杭の生産比率増加

杭材の追加

新たに高支持力対応節杭を用いることで、地盤から決まる支持力を効果的に採用できます。

高支持力対応節杭(HSタイプ)とは、標準タイプと同じ節部径でありながら、軸部径を大きくした杭です。軸部断面積が増え、大きな軸力にも対応できます。



I-6 主なトピックス

海外展開

ベトナム
PV社

再生可能エネルギー分野への拡大推進中
原材料高騰・コロナ禍による工事採算悪化

- 再生可能エネルギー分野での受注拡大推進中
利益率の高い案件の受注強化
- 原材料価格急騰・コロナ禍(ロックダウン)による採算悪化
- 国内事業との連携強化・施工技術向上への取組強化

ミャンマー
VJP社

クーデター影響により規模縮小し事業継続
前期減損実施済による赤字圧縮

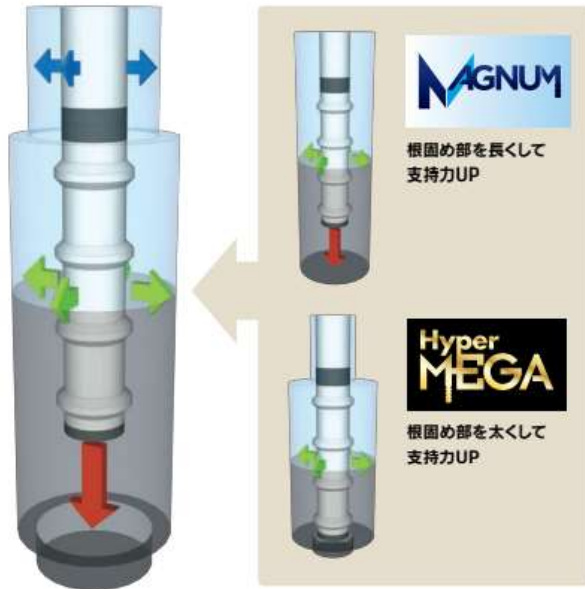
- 経済活動停滞・建設需要減少から、規模縮小し事業継続中
 - ✓ 前期減損実施済 ⇒ 償却負担軽減・赤字幅圧縮
 - ✓ 事態の推移注視の上、適切に対応していく方針

Smart-MAGNUM工法

Smart-1 最新の技術で「Smart」高支持力

国内最大級の支持力

▶ 当社保有工法のさまざまな特長を集約した万能型工法



Smart-2 ICTで「Smart」品質管理

Smart-3 多彩な杭組み合わせで「Smart」デザイン

月刊「近代建築」2022年2月号で紹介されました

より高い経済性を目指した杭基礎の高支持力工法「Smart-MAGNUM®工法」
ジャパンパイル株式会社

総合基礎建設業会社であるジャパンパイルは、さらなる機能を追加したプレローリング拡大根固め工法「Smart-MAGNUM®工法」を開発・販売した。この新工法は、日本建築総合試験所の性能評価を取得し、昨年1月に国土交通省の大臣認定を取得した。

同社保有工法の「MAGNUM®工法」は、杭径対比の掘削径と杭下長の掘削を拡大することでコンクリートパイルとしては最大級の高支持力を確保することができたが、ストレート掘削のみの掘削方法であった。

の可変技術を新工法でも採用することで先鋭支持力を向上させ、「Hyper-MEGA工法®」（プレローリング拡大根固め工法に分類される同社保有の工法）と比較して最大で2割程度の支持力を向上させることが可能となった。

「Smart-MAGNUM®工法」は、「Hyper-MEGA工法®」と「MAGNUM®工法」の機能を含んだ多機能型高支持力工法と言える。

◆「Smart-MAGNUM®工法」の特徴
前述したように「Smart-MAGNUM®工法」は、先鋭根固め部径を1～2倍程度まで拡大

るように多機能化し、従来から保有している高支持力杭工法に比べ、コスト削減した杭施工方法の提供を実現した。

また、統合的な管理装置を用いることで、掘削深度、充填液注入量、電流値および積分電流値といったデータをリアルタイムに計測・記録し施工状況を管理する。このようなICTを活用した杭工事記録システムを導入することで、各結果の記録を一元管理・保管することも可能である。

さらに、断面積を大きくした高支持力対応節杭（HSタイプ）などの高強度化、大径化した杭を採用するより新工法

本号掲載の



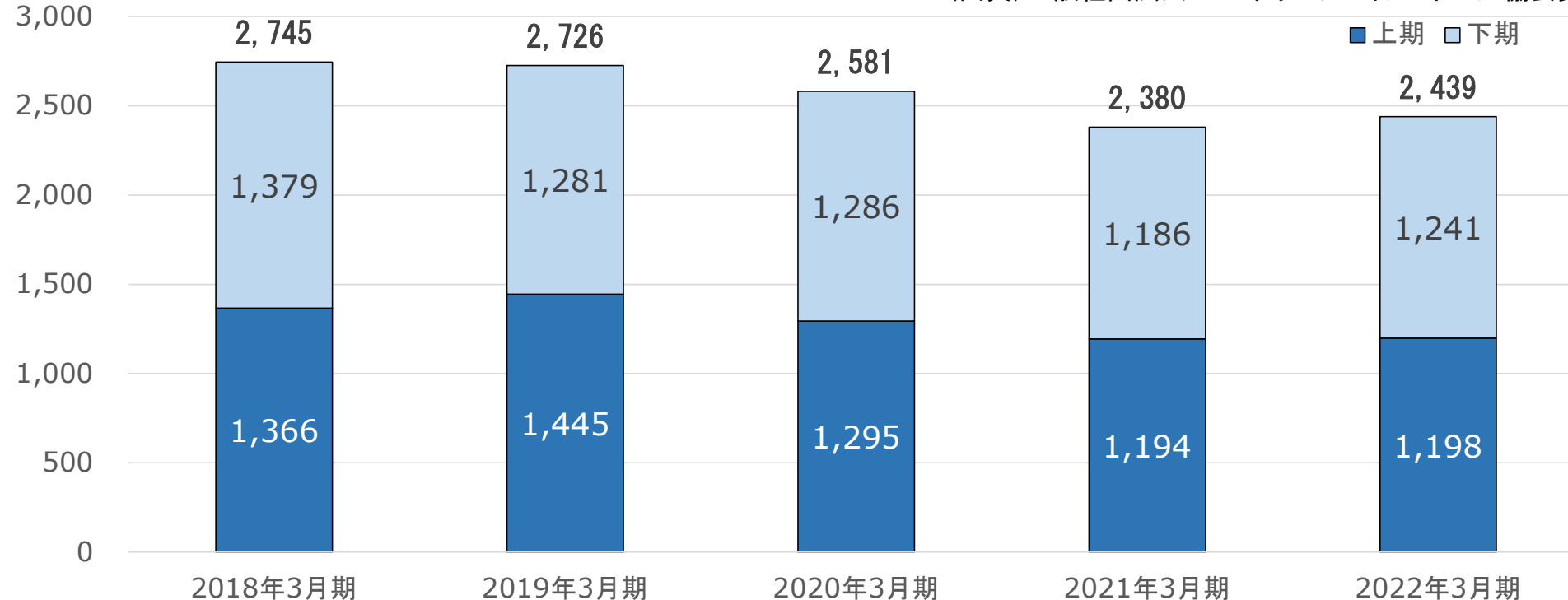
にて弊社が杭基礎の施工を請け負っております
※Smart-MAGNUM®工法ではなく、従来工法の施工実績です

Ⅱ マーケットの動向

Ⅱ-1 全国コンクリートパイロ出荷量

(単位：千トン)
3,000

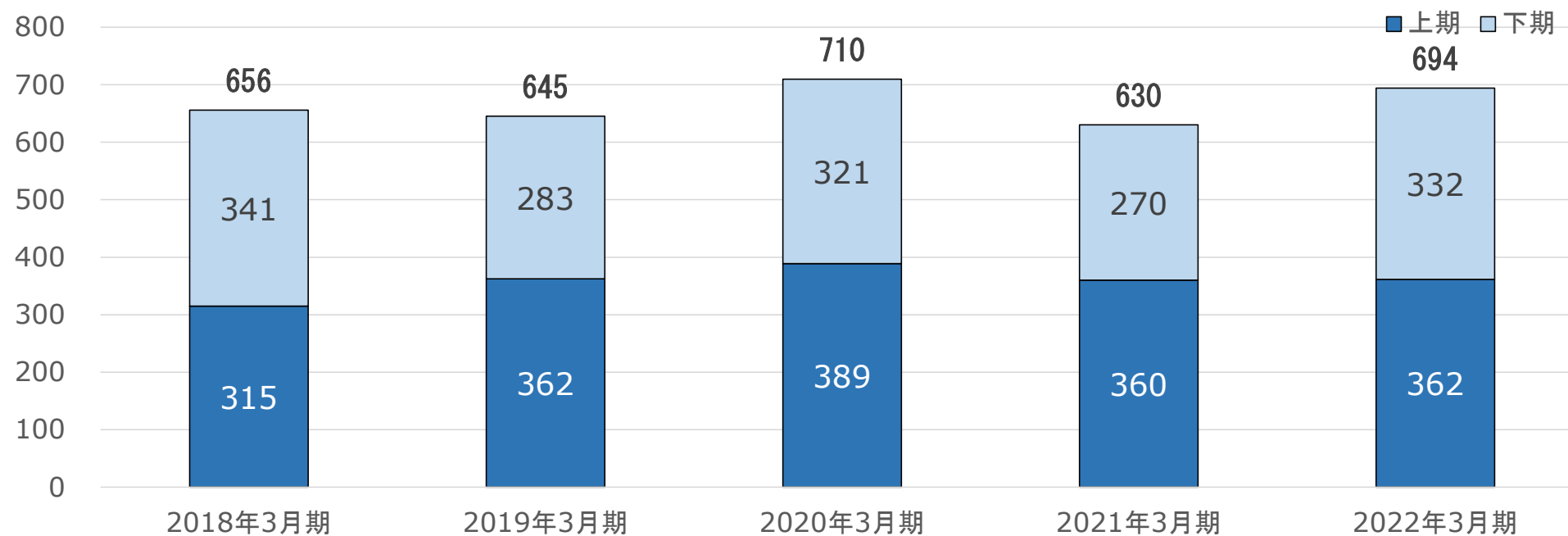
(出典)一般社団法人 コンクリートパイロ・ポール協会資料



➤2022年3月期は、前期比若干の増加

Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイプ完成量(国内)

(単位：千トン)



➤ 2022年3月期は、前期比増加

Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料

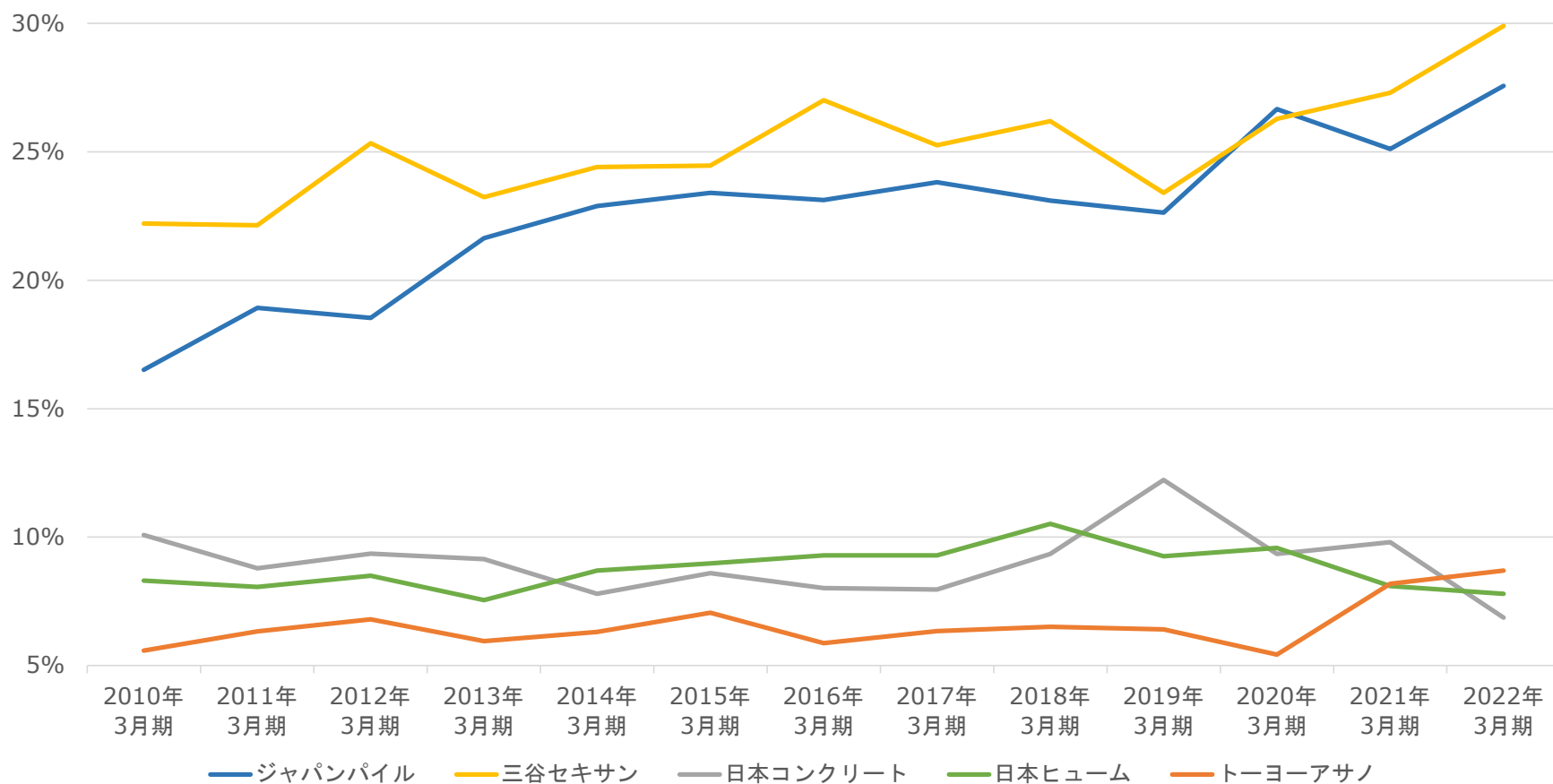
		2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
当社グループ	完工量(千t)	656	645	710	630	694
	シェア	23.9%	23.7%	27.5%	26.5%	28.5%
	出荷量(千t)	634	617	688	598	672
	シェア	23.1%	22.6%	26.7%	25.1%	27.6%
三谷セキサン	出荷量(千t)	719	638	678	650	729
	シェア	26.2%	23.4%	26.3%	27.3%	29.9%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	257	333	241	233	167
	シェア	9.3%	12.2%	9.3%	9.8%	6.9%
日本ヒューム	出荷量(千t)	289	252	247	193	190
	シェア	10.5%	9.3%	9.6%	8.1%	7.8%
トーヨーアサノ	出荷量(千t)	179	175	140	195	212
	シェア	6.5%	6.4%	5.4%	8.2%	8.7%
業界全体	出荷量(千t)	2,745	2,725	2,581	2,380	2,439
	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Ⅱ-4 コンクリートパイルの出荷シェア推移(国内)



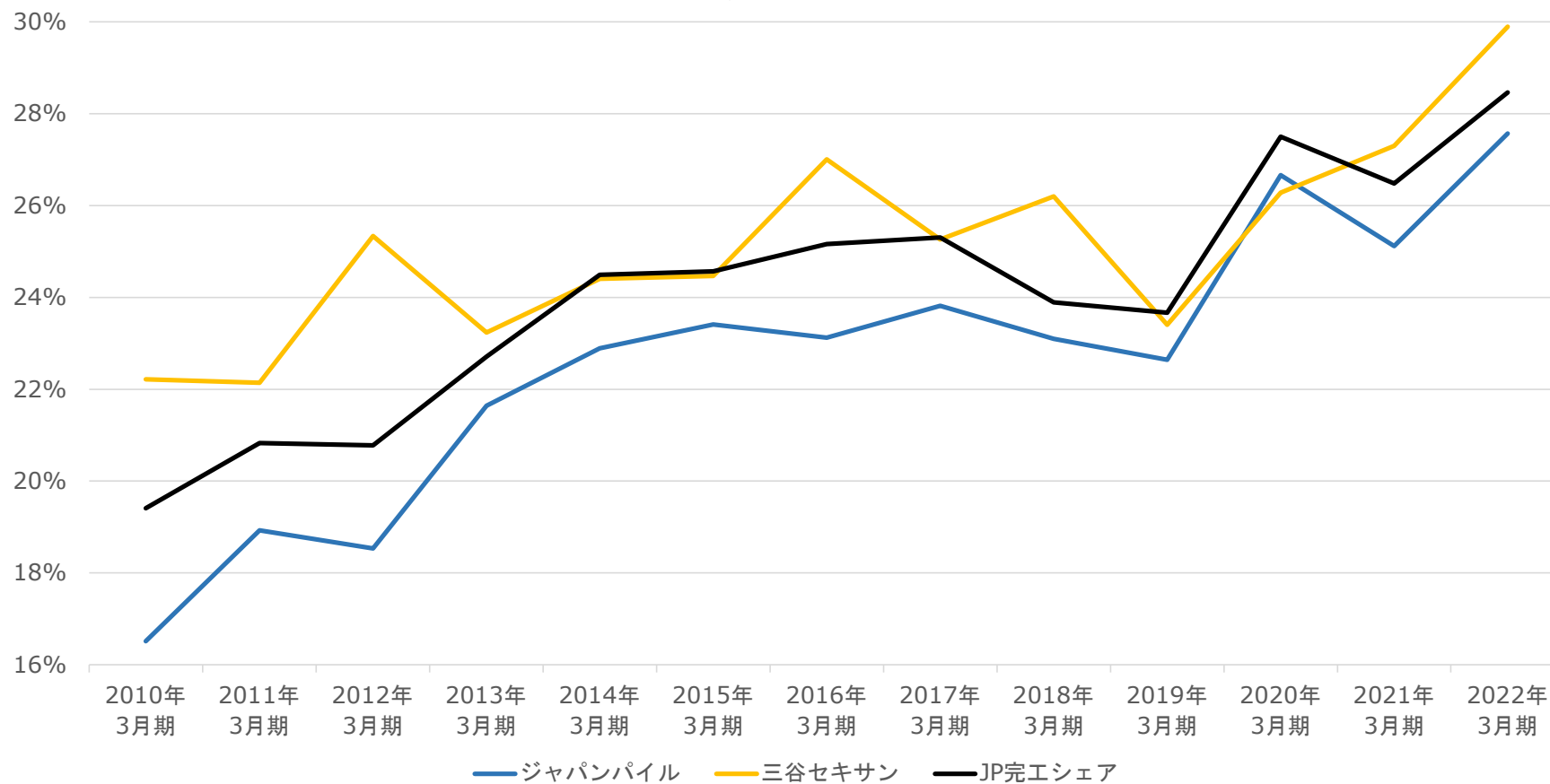
アジアパイルホールディングス株式会社

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料



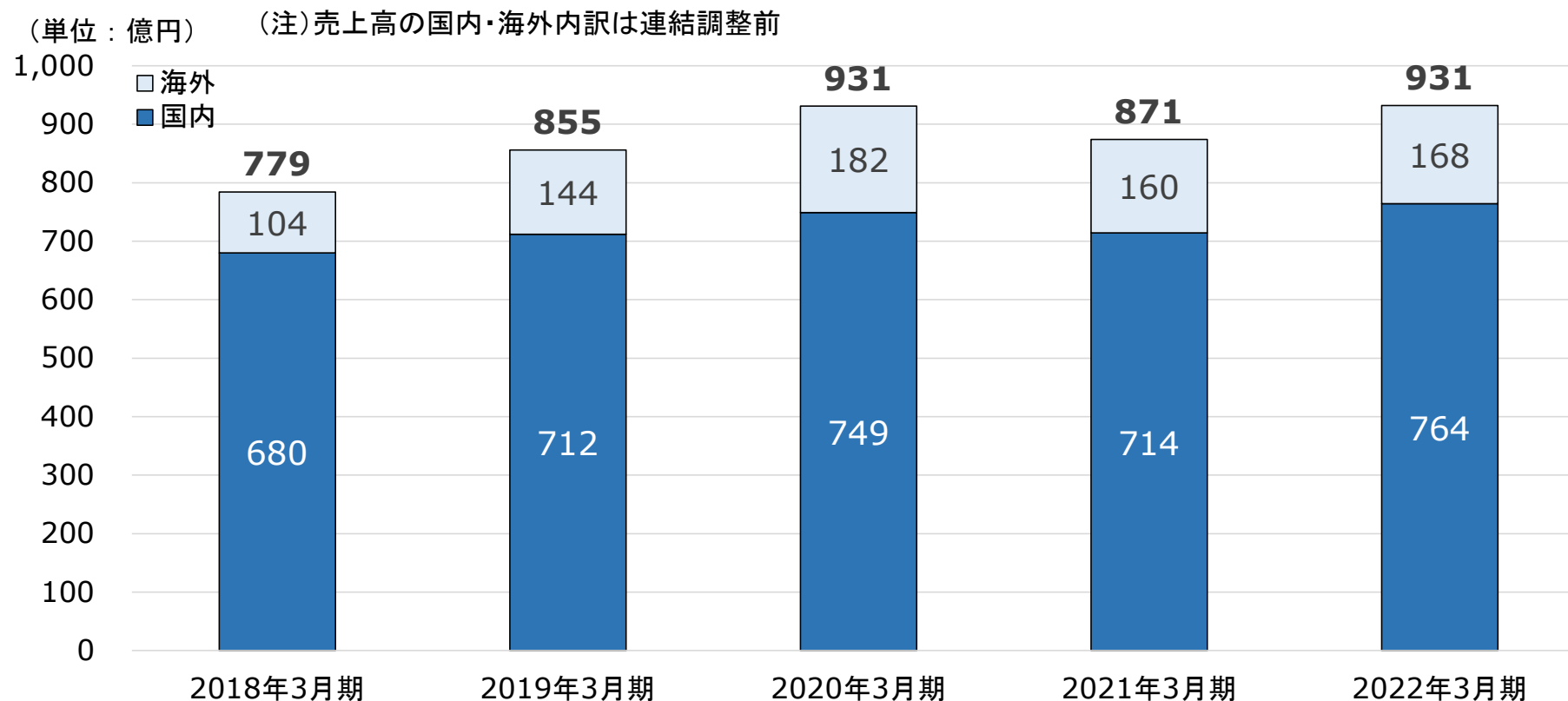
Ⅱ-5 コンクリートパイルのシェア推移(国内)

(出典)一般社団法人 コンクリートパイル・ポール協会資料および当社社内資料



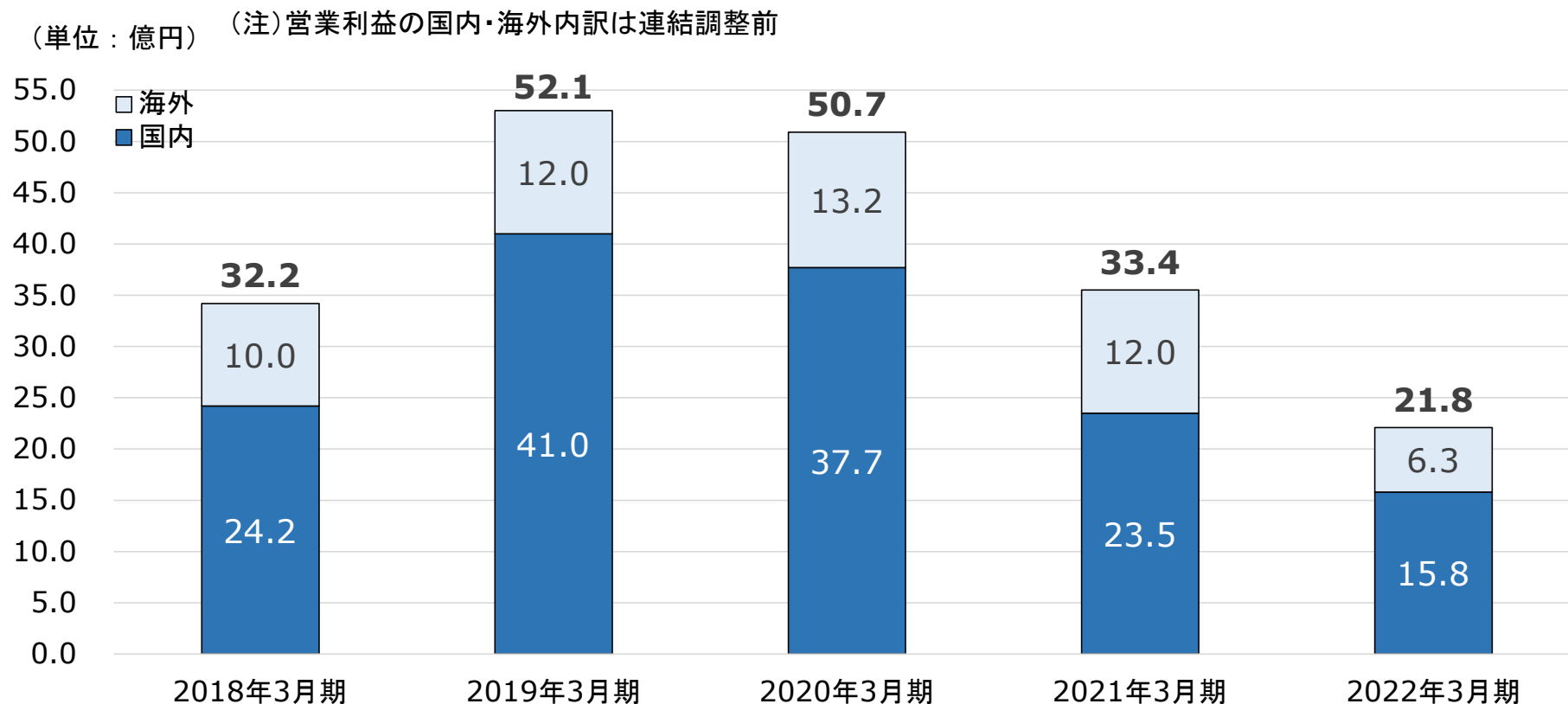
Ⅲ 決算概要(連結)

Ⅲ-1 売上高の推移



➤国内・海外共に堅調に推移し、増収

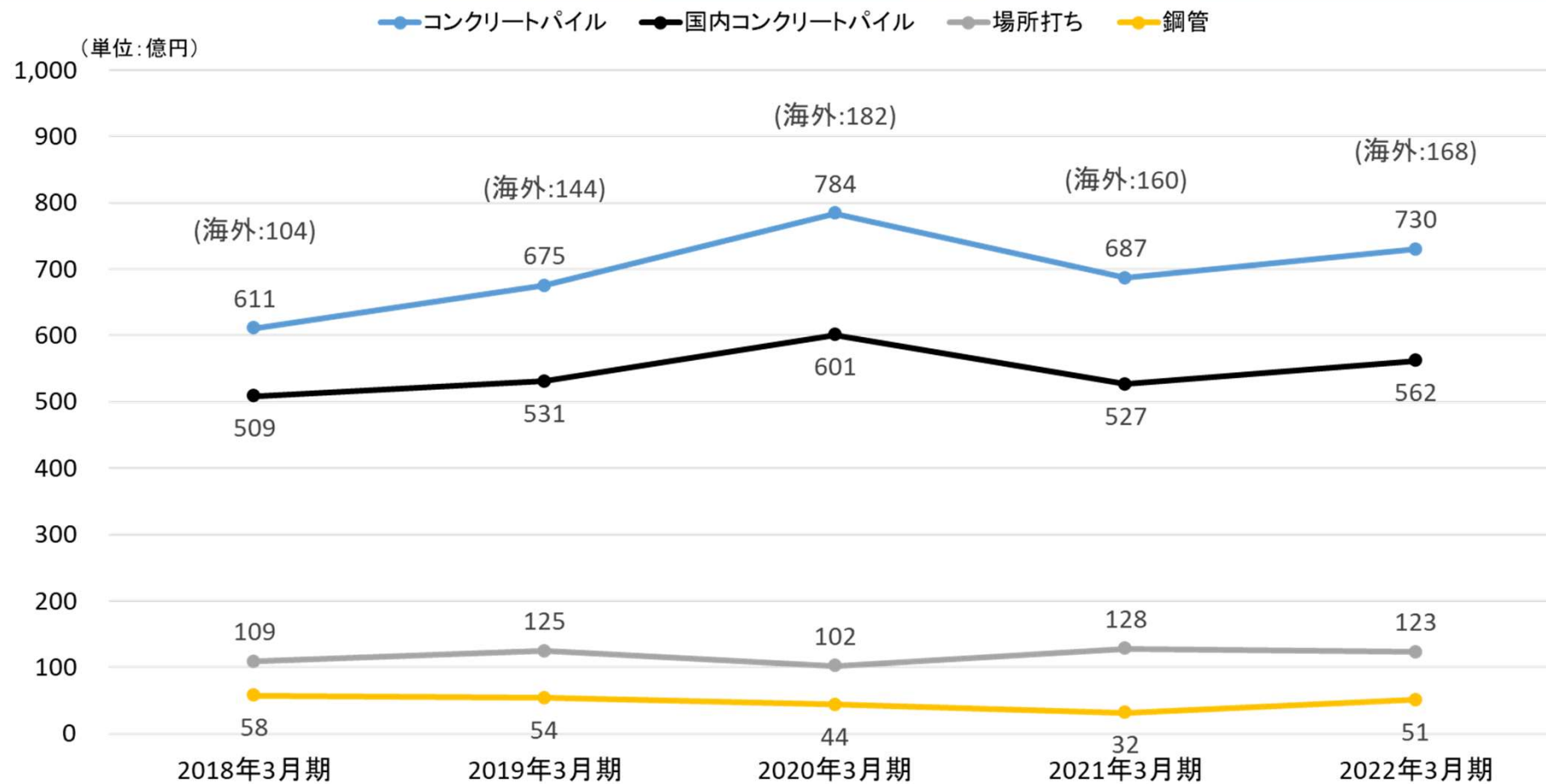
Ⅲ-2 営業利益の推移



➤国内:新工法の販促による一時的な収益の悪化

➤海外:原材料高騰・コロナ禍(ロックダウン)等による採算悪化

Ⅲ-3 部門別売上高の推移



Ⅲ-4 損益計算書

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期 (予想)
(単位:百万円)						
売上高	77,994	85,566	93,175	87,192	93,176	105,000
売上総利益	11,336	13,593	13,860	12,328	11,394	—
営業利益	3,223	5,212	5,076	3,340	2,184	4,500
経常利益	2,997	4,847	4,596	3,081	2,169	4,000
親会社株主に帰属する当期純利益	1,911	3,164	2,712	2,437	1,494	2,500
売上高総利益率	14.5%	15.9%	14.9%	14.1%	12.2%	—
自己資本当期純利益率	7.0%	10.5%	8.1%	6.9%	4.1%	—

Ⅲ-5 キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,750	3,195	6,891	7,304	3,628
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,001	△ 3,164	△ 2,549	△ 4,549	△ 2,660
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	2,014	1,937	△ 3,636	△ 155	△ 1,131
IV. 現金及び現金同等物の期末残高	9,424	11,330	11,957	14,344	14,225

(ご参考)新5か年計画 進捗状況

(単位:億円)	新5か年計画 2023年度	(1年目) 2019年度 実績	進捗率	(2年目) 2020年度 実績	進捗率	(3年目) 2021年度 実績	進捗率	(4年目) 2022年度 計画値	進捗率
売上高	1,100	931	85%	871	79%	931	85%	1,050	95%
＜国内＞	800	749	94%	714	89%	764	96%	850	106%
＜海外＞	300	182	61%	160	53%	168	56%	200	67%
営業利益	65	50	77%	33	51%	21	32%	45	69%

(注)売上高、営業利益の国内・海外内訳実績は連結調整前

IV 経営概況

IV-1 経営概況

1. コンクリートパイル市場の構造

- (1) 高支持力工法と大径杭・高強度杭
- (2) 高支持力工法がもたらした市場の変遷

2. 新工法普及に向けた前期当社戦略

- (1) 新工法の普及活動
- (2) 顧客の拡大

IV-2 経営概況

3. 今年度方針

- (1) 新工法の進化と環境の整備
- (2) 原材料価格上昇への対応

4. 場所打ち杭・鋼管杭の取組方針

- (1) 人材養成
- (2) 技術開発

IV-3 経営概況

5. 海外の現状

- (1) ベトナムPV社の現況
- (2) ミャンマーVJP社の現況
- (3) 内外事業の融合

6. 創業100周年に向けて



アジアパイルホールディングス株式会社

Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。